

(1) はじめに・背景 : これまで安全教育のカリキュラムはどうなっているのか、現状のカリキュラムでよいのか、安全教育に関わる教科書教材はこのままでよいのか等に関連学会で繰り返し、問い、発表、報告、解説等して来た。近年では日本安全教育学会でカリキュラムや高校、大学での安全教育の基本的概念としての Risk や Hazard 概念の教育の内容化を述べ、解説、主張した。これらの用語・概念なしには、既に日本国でカタカナ・英語化しているリスクコミュニケーションやリスクマネジメントとか健康危機管理の意味が理解できるであろうか。だがその現実是用語間の関係がはっきりせず、曖昧なまま使用されている。この他、クライシスマネジメントとか、モラルハザードがある。リスクとハザードは 50 年ほど前の世界的に有名な SHES・Health Education の 10 概念の中にあって Risk and Hazard が行動目標化されている。SHE S については 40 年ほど前の日本学校保健学会のシンポジウム (1972) やそれに続く学会発表で繰り返した。だが、その後、日本国でこれを検討、研究した者は少なく、その成果も薄く浅い。その後は忘れられたかのように 1980 年代になると、この Conceptual approach や基本的概念、構造化、現代化については全く問うもの、研究する者すら見当たらなくなった。現実の世界は情報化が進み、その SHES に指摘された (知識・情報の爆発) Knowledge Explosion に対する教育的内容等の研究は皆無のまま、放置されている。学習者・子ども達、中学・高校生、大学生は現実世界における安全、事故災害現象を、この安全教育の状況で認識、理解できるであろうか。またリスクやハザードによる問題と災害・傷害事態の生起要因や条件を思考・分析し、その対応ができるのかと問うことの問題は残されたままである。

(2) 目的 : 本研究では安全教育カリキム、教材の「3次元構成」の理論的、論理的必然性を提示し、学習指導要領枠の教科書教材とその教育の問題及びその改善として、NIE の活用について述べる。

(3) 研究対象と方法 : 1) 学習指導要領、教科書教材の選択、構成原理によりカリキュラム構造の分析 2) 健康、安全教育専門書、論文等におけるそれらのカリキュラム構造の研究の存在と分析 3) 海外先進国の健康、安全教育専門書、論文等における 2) と同様の検討、比較と分析

(4) 結果と考察 : 1) 学習指導要領や文科省の「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」や県教委の「保健・安全教育の手引」類にはこれまで内容の「精選」とか、「厳選」があるが、その原理が明示されたことがない。構成原理なしに、どうして、教育内容・カリキュラムが出来るか、精選、厳選が可能か、となる。理念や目的がよくてもそれから先が導出出来ないものとなっている。近年の保健教科書では始めに「健康・成立要因」の題材で「ラロンドの 4 大要因」モデルがヘルスプロモーションの解説と共に提示されている。(資料 1) 筆者が長年保健授業を担当している高専 1 年生は保健教科書内容が「生活習慣病予防対策型」に偏っていて、他の「3 大要因」が軽視・欠落していると批判した。2) と 3) では① 佐藤のカリキュラム構成モデルでは健康、安全教育の内容構成は出来るか、と古く批判した。最近では② 清水の 4 本柱で可能かを関連学会、研究会で批判した。③ 古くは NEA の原理、SHE S、J. Fodor らのものがあり、これらがその根拠となっている。④ 現行の保健教科書教材を活用するとしたらラロンドのモデルである。その他、A. ディーバーやブラムがある。しかし、これらには問題水準、種類、性格等の次元がない。これがなければ問題解決の次元は論理的に繋がらない。三次元構造化 (資料 2) である。

(5) まとめ・提言 : 共同研究によるカリキュラムの構造化と実践における NIE の活用化 (連絡先 〒310-0903 水戸市堀町 1147-16)